

# 2009年度 事業報告書

ANNUAL REPORT



財団法人 東京YMCA

**TOKYO YMCA**

## 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

### Mission of The Tokyo YMCA

The Tokyo YMCA carries out activities which contribute to local communities in an attempt to create a just and peaceful world, in the hope that young people can achieve holistic development of their spirits, minds, and bodies, based on the love and spirit of service as exemplified by Jesus Christ.

東京YMCA

# 財団法人東京YMCA 2009年度運営方針

## － 東京YMCAの使命 －

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

## － 目的 －

財団法人東京YMCA寄付行為における目的

この法人は、キリスト教精神にもとづき、青少年等の心身の健全な成長をはかるとともに奉仕の精神を養い、もって民主的社會の発展と世界の平和に寄与することを目的とする。

## － 運営方針 －

2008年度は財政再建計画の最終年度にあたり、事業・財政の健全運営を図ることを目標とした年であった。学校事業は、大学全入という社会状況の中で苦戦をしつつも総体として安定した事業展開となったが、地域行政との協働事業拡大に伴う管理運営の課題に直面することとなった。

2009年度は、前年度の課題点を厳しく反省・評価をした上で、さらに事業の管理運営と財政状況を改善する年度としたい。社会・地域に対する信頼を強めるために、必要なことは惜しみなく実行していくこととし、そのために会員・職員が一致団結して努力をする。

また、キリスト教精神を基とする東京YMCAのミッションを再確認し、地域に必要とされる公益団体として存在するために、会員（個人・法人）・ボランティアと共に力を合わせて組織・団体のあるべき姿を共有していく年としたい。

## － 事業計画 －

寄付行為に定めた目的を達成するため事業について以下のとおり計画する。

### 1 小集団活動を実施する

「共に支えあう相互関係づくり」として小集団活動の手法を用い、青少年育成・野外活動・障がい児・者プログラムをはじめ全ての事業をとおして進展させ、一人ひとりのいのちの大切さを培う。

- (1) 青少年健全育成プログラムを行う
- (2) 障がい児・者へのプログラムを行う
- (3) 居場所プログラムを実施し、一人ひとりの命を大切にする

## 2 体育、レクリエーション、キャンプ、野外活動等を実施する

幼児・青少年の心身共なる成長、及び、成人・高齢者の健康増進と維持を願って、体育、レクリエーション、キャンプ、野外活動等を実施し、より良い生き方、生活を築くウェルネスプログラムを推進する。

- (1) 幼児、青少年への体育プログラムを行い、生涯に亘って運動・スポーツを親しむ基礎を養う
- (2) 成人の健康増進を図るプログラムを展開する
- (3) 高齢者介護予防プログラムを展開する

## 3 語学、職能教育を実施する

国際理解推進の基盤として語学教育を位置づけると共に、幼少よりの語学教育事業を強化する。また専門学校は質の高い指導を行い、社会に必要とされる人間を育成する。

- (1) 語学教育を行い、国際理解の基を築く
- (2) インターナショナルスクールを運営する
- (3) 専門学校を運営する（ホテリア育成、社会体育並びに保育専門従事者の育成）

## 4 講座、講習会、研修会等を開催する

時代状況を読み取り、地域・国際社会の課題を見出して、啓発的な講座、講習会、研修会等の事業を実施する。

- (1) 国際理解講座、ボランティアコーディネーター養成講座、市民講座、環境教育プログラムを行う

## 5 国際交流等の活動を実施する

国際青少年団体として、各国YMCAとのパートナーシップを発展させ、また、国際交流を進展させ、国際化に適う青少年育成を図る。同時に、国内では在日外国人生活支援活動を行う。

- (1) パートナーシッププログラムを検証し、発展させる  
(フロストバレー・バングラデシュ・北京・ハワイ島・ソウル)
- (2) 青少年の国際交流を進展させる
- (3) 在日外国人支援として生活情報を提供する

## 6 社会奉仕活動を実施する

地域社会ネットワークの一員としてコミュニティ形成を担い、社会において弱い立場に立たせられている人々と共に生きるための活動を行う

- (1) ボランティアによる活動を推進する
- (2) 地域社会との協働活動を行う
- (3) 地域ネットワークの一員としての役割を担う

## 7 幼児教育を実施する

子どものいのちを育む幼児教育活動を、保護者・地域の人々と共に展開する。

- (1) チャイルドケア事業を運営する
- (2) 乳幼児保育事業を運営する
- (3) 子育て支援プログラムを行う
- (4) 児童館・学童保育の運営を行う

## 8 教育施設を提供する

野外教育プログラムの実践をとおした青少年育成の場とし、指導・プログラム・施設提供を行う。

- (1) 諸団体の野外環境教育プログラムへの施設提供を行う
- (2) NPO、国際協力団体への施設提供を行う

## 9 その他目的を達成するために必要なことを実施する

寄付行為における8事業の他、目的を達成するための事業を展開する。

特に、YMCAの行う多くの奉仕活動や事業支援を、YMCA使命に賛同する会員(個人・法人団体)を中心とする協力者と共に展開し、事業支援のためのファンド形成を行う。

- (1) 奉仕者としての会員を中心とする地域奉仕・交流活動を行う
- (2) 公益性事業進展のため国際協力基金、奨学基金、そして、フレンドシップファンドなどを強化していく

# — 重点事項 —

## 1 公益法人としての働きを展開する

- a 寄付行為目的事業を推進し、特に青少年健全育成に寄与する
- b.社会的信頼に適うよう管理運営を見直し、整えていく
- c.健全な財政運営を行う

## 2 地域社会の形成に関わる

- a. 各事業が地域社会と協働し、その形成に関わり、会員部がその働きの核となる

## 3 持続可能な組織づくりと共に安定した事業運営を行う

- a.教育事業の充実を図る
  - 1) 専門学校においてキリスト教主義学校としての質の高い指導を行う
  - 2) TYISにおいて社会的認知を受けるための資格取得を目指す
- b.野外教育センター・キャンプの有効活用を推進する
  - 1) 各センターの特色を明確にし利用者の拡大を図る
- c.チャイルドケア事業を充実させる。
  - 1) チャイルドケア事業の指導者養成を積極的に行う
  - 2) 児童館・学童保育の堅実な運営を図る

## 4. 中・長期計画を策定する

- 1) 将来に向かい、東京YMCAの働きが発展的に展開できるよう計画を定め、対応する

## 5 国際理解・協力を通して平和に寄与する

- a.パートナーシップを通して国際交流・教育活動を行う

## 6 寄付文化を形成し、基金を充実させる

- a.賛助会を中心に企業からの活動支援制度を展開する

## 2009年度のあゆみ

●4月4日 東陽町センターで「東京ーフロストバレーYMCA パートナーシップ 30周年記念リユニオンパーティー」を開催し、これまでにフロストバレーキャンプに参加した方や関係者など100名が出席した。



●4月9日 「第19回チャリティーゴルフ大会」を総成カントリークラブで開催。92名が参加した。収益金は liby、青少年育成、国際プログラム、障がい児プログラム、会員活動などに用いられた。

●4月13日～18日 北京 YMCA より6名のスタッフが来日され、東陽町センターをはじめ、東雲児童館、江東 YMCA 幼稚園、山中湖センターなどを訪問し、各事業について研修を受けた。4月14日には東京ー北京 YMCA パートナーシップ委員による歓迎夕食会を開催した。

●4月18日 「第12回東日本地区 YMCA 理事・常議員・総主事研修会」(主管：埼玉 YMCA)が大宮ソニックシティで開催され、東日本地区の各 YMCA より76名の参加があった。東京 YMCA からは理事・常議員・職員、15名が出席した。

●4月29日 高石ともや氏による「バンガラデシュ奨学基金チャリティーコンサート」が日本キリスト教団浅草教会で行われ、益金より20万円のご寄付が寄せられた。

●4月29日～5月6日 アメリカ・フロストバレーで行われた東京ーフロストバレー YMCA30周年を記念したファミリーキャンプに東京 YMCA から5名のレイパーソンとスタッフが参加した。

●5月17～23日 東陽町センターを会場に「会員芸術祭」を開催し、会員を中心に56名が絵画や写真等の作品65点を展覧された。初日はオープニングセレモニーを行い、出展者が集った。

●5月23日 「第7回会員大会」を東陽町センターで開催し、110名の会員が出席した。大会では、前年度の会員部活動報告や会員部運営委員の選出を行い、Volunteer of the year には会員の小川圭一氏、小川礼子氏が、また Youth volunteer of the year には各コミュニティーセンターから推薦された6名のボランティアリーダーが受賞した。名誉会員には元東京 YMCA 理事長の加美山節氏が推挙された。

●7月2日 「賛助会年会・アドバイザー会」を東陽町センターで開催し、法人会員、アドバイザー、役員、運営委員、職員が出席。今年度は15社が永年継続法人として表彰された。

●7月7日 バーンズ亀山静子氏(ニューヨーク州スクールサイコロジスト/東京ーフロストバレーYMCAパートナーシップ現地委員)を講師に迎え、発達障がい児・者プログラムのボランティアリーダーを対象としたトレーニング「発達障がい児・者の理解」を行い、リーダー・スタッフ78名が参加した。



トナーシップによる「サッカー交歓会」が東京で行われ、ソウル YMCA よりメンバー(子どもたち)とスタッフ18名が来日した。江東センターやインターナショナルスクールの子どもの混合チームとの交流試合やホームステイ、交流プログラム等を行い、親交を深めた。

## 2009年度のあゆみ

●8月29日 東陽町センターで「夏まつり」(会員部)を開催し、約650名が来場した。ワイズメンズクラブや職員による模擬店、バンド演奏、ダンス、抽選会など会員と地域の人々の交流の場となった。

●9月12日 渋谷駅周辺で「国際協力一斉街頭募金」を行った。会員や学生、各センターの活動に参加している子どもたち、ワイズメン、委員、職員など280名が募金を呼びかけ、496,912円が寄せられた。

●9月23日 「第23回インターナショナル・チャリティーラン」を代々木公園で実施した。64チーム384名が参加した他、約300名のボランティアが活躍した。また多数の企業・団体より協賛や協力をいただいた。益金は東京YMCA 障がい児支援プログラムのために用いられる。



●9月26日 山崎美貴子氏(常議員)と廣田光司総主事が共同代表を務める東京災害ボランティアネットワーク主催の巨大地震等を想定した「首都圏統一帰宅困難者対応訓練」が行われ、東京YMCAの会員、スタッフ、ワイズメンズクラブがエイドステーションの運営や徒歩訓練等にボランティアとして協力した。

●10月13日 バーンズ亀山静子氏(ニューヨーク州スクールサイコロジスト/東京ーフrostバレーYMCAパートナーシップ現地委員)を講師に「発達障がいの子どもの生活一日ごろ困っていることを一緒に考えてみませんか」と題した保護者対象のセミナーを開催し、約40名が参加された。

●10月23～24日 「第3回ソシアス・フォーラム～私たちの明日の夢と希望を実現するために」を高尾の森わくわくビレッジで開催し、会員・職員約40名が参加した。廣田光司総主事より「130周年を迎える東京YMCA」と題した発題を受けて、グループディスカッションを行ったほか、会員・職員の交流の時を持った。

●11月3日 創立30周年を迎えた社会体育・保育専門学校が校友会主催の式典と祝会を催し、卒業生や職員、講師など関係者が東陽町センターに集った。30周年の歩みをまとめた小冊子「創立30年史」も発行した。



●11月12日 東京YWCA、在日本韓国YMCAと合同で「YMCA・YWCA合同祈禱会」が東京YWCAで行われ、約60名が参加した。『いま、地球市民として生きるために』をテーマに、ジョージ・ギッシュ氏(青山学院大学名誉教授)にメッセージをいただいた。

●11月14日 「第4回教育シンポジウム」を東陽町センターで行った。ヘネシー澄子氏(東京社会福祉大学名誉教授)による講演「愛着を深める子育て～もっとわが子を愛するために～」に子育て中の親や、普段子どもたちと接するボランティアリーダーなど138名の参加があり、好評であった。

●11月14日 「山手学舎創立55周年記念会」を山手センターで行い、学舎生OB、後援会、舎生など52人が集った。記念講演では、山手学舎1期生の井上義祐氏(元プール学院大学学長)よりお話をいただいた。

## 会 員 部

### ●総 括

2009年度は「3カ年計画」の3年目となり、各コミュニティーセンターの活動もより特徴のあるものに成長し、会員部の役割も次のステップを迎えることとなった。会員組織の裾野を広げるべく、会員増強小委員会を5回開催し、その基盤づくりに努めた。

全般的には通年プログラムを実施しつつ、次年度以降の諸準備を着実に整えた1年であった。

### ●特筆すべきプログラム

・第23回を迎えたチャリティーランは経済不況の影響により、参加チームの募集において、大きな打撃を受けた。しかし、終了後の評価会の議論を経て、次年度以降の開催場所・日程を早急に決定し、参加チームの獲得に向けての努力も2009年度後半からなされている。現時点において、約50チームの内諾を受けている。



・会員組織の増強には、ワイズメンズクラブの協力が大きな支えとなるが、2009年度には、東京銀座ワイズメンズクラブ、東京白金高輪ワイズメンズクラブが組織され、大きな励みとなった。特に、東京銀座ワイズメンズクラブは平均年齢41歳と若手中心のクラブであり、1年目から精力的に諸活動を展開している。

### ●2009年度のあゆみ

- 4月 9日 第9回チャリティーゴルフ大会
- 5月16日 神田川船の会
- 5月17日～23日 会員週間芸術祭
- 5月23日 第7回会員大会
- 6月28日 ユニークダンスパーティー
- 8月29日 夏まつり
- 9月23日 第23回インターナショナル・チャリティーラン
- 10月12日 第27回ソフトボール大会
- 10月23日～24日 第3回ソシアス・フォーラム



- 10月24日 第60回神田川船の会
- 11月 9日 ユニークダンスパーティー
- 11月14日 第4回教育シンポジウム
- 11月23日 江戸城ファミリーウォーク
- 12月14日 第150回中国語の聖書に親しむ会
- 2月 6日 第11回懸賞論文表彰式  
(財団法人愛恵福祉支援財団主催)



## 賛助会事務局

---

### ●総括

今年度も多くの賛助会員からご支援をいただきました。また、年間を通して開催したチャリティーゴルフ大会、会員大会、夏まつり、インターナショナル・チャリティーラン、教育シンポジウム、各コミュニティセンターのバザー等にも、多くの献品が寄せられ、物心両面から支えられた1年であった。

### ●特筆すべきプログラム

・7月2日に東京YMCA賛助会年会・アドバイザー会を開催し、賛助企業16社、理事・常議員・アドバイザー22名に出席をいただいた。席上で継続会員7社に、橋本徹賛助会会長より感謝状が手渡された。第2部ではスタッフの秋田正人氏による「ドイツの若者支援の状況」の報告がなされた。

### ●2009年度のあゆみ

4月21日 第607回午餐会

「能と英文学」

(元東洋大学教授 大久保 直幹氏)

5月26日 第608回午餐会

「野菜で元気！」

(恵泉女学園大学准教授 藤田 智氏)

6月23日 第609回午餐会

「切支丹の伝えた和算の奇跡」

(元ICU学長 大口 邦雄氏)

7月23日 第610回午餐会

「グノーシスと『ユダの福音書』」

(前東京大学教授 大貫 隆氏)

8月14日 第611回午餐会

「『人間の安全保障』と平和構築のための連携」

(東京大学教授 佐藤 安信氏)

9月25日 第612回午餐会

「賀川豊彦と関東大震災」

(松沢資料館学芸員 杉浦 秀典氏)

10月29日 第613回午餐会

「幻の1940年東京オリンピック」

(武蔵野美術大学教授 青沼 裕之氏)

11月24日 第614回午餐会

「聖書・信仰・友情」

(日本キリスト教文学会会長 関口 安義氏)

12月15日 第615回午餐会

「おお、よし、よし」

(カトリック多摩教会 晴佐久 昌英氏)

1月26日 第616回午餐会

「シェイクスピアと能」

(中央大学名誉教授 百瀬 泉氏)

2月22日 第617回午餐会

「在宅介護と看取り」

(ライフケアシステム 辻 彼南雄氏)

3月26日 第618回午餐会

「私の海外技術協力をふりかえる」

(元国際事業団専門員 萩野 瑞氏)

## 国際部

### ●総括

東京一フrostバレーYMCA パートナシップ 30 周年と北京 YMCA 創立 100 周年の周年行事があった。「YMCA 国際ネットワーク」を活かし、特にユースが成長する機会となる国際事業を展開することを確認した。1 月には、ハイチ地震の被災地救援街頭募金を各センターで行った。隣国ドミニカ共和国や米国の YMCA が救援物資をもって現地に入ったとの報告は、改めて NGO としての YMCA ネットワークの力を実感するものであった。

ユース・リーダーをワークキャンプやキャンプへ派遣したが、多様な国々のユースとの交流や体験が成長の時となるので大切な働きと思われる。

バングラデシュ YMCA 同盟へ積極的に関わりを図り、12 月の視察と 2 月開催のパートナーシップ会議へスタッフを派遣した。体制整いつつあるバングラデシュ YMCA 同盟を支援すると共に、子どもたちへの教育支援再開のための下地作りを図った。

### ●特筆すべきプログラム

・9 月 12 日、渋谷駅周辺で国際協力一斉街頭募金を行った。約 280 名が参加し、約 50 万円の募金が寄せられた。なお、アジア・太平洋地域災害被災地救援募金（台湾、フィリピン、ベトナム、インドネシア・スマトラ、サモア）では約 26 万円が、ハイチ地震被災地救援募金では約 80 万円が寄せられた。

・フrostバレーYMCA サマー及びスキーキャンプリーダーへ 13 名、四川地震支援ワークキャンプへ 1 名、インドネシア・ジョグジャカルタワークキャンプへ 1 名、パレスチナオリーブ収穫プログラムへ 2 名、YMCA 地球市民育成プロジェクトへ 1 名のユースを派遣した。

・東京一ソウルパートナーシップ少年サッカー交歓会を東京で実施し、少年ら 18 名が来日。江東センターやインターナショナルスクール生徒らの混合チームと試合を行い、ホームスティへの受け入れも行った。

・杉並区からの委託により、杉並区・瑞草（ソウル）の中高生交流プログラムを実施し、双方各 20 名が参加。インフルエンザ流行の時期と重なったが、良き交流となった。

・ウクライナ YMCA とハワイ YMCA と、両国の子どもたちが作成したクリスマスカードの交換プログラムを継続して実施した。



### ●2009年度のあゆみ

4月4日 東京一フrostバレーYMCA パートナシップ 30 周年リユニオン・パーティー  
(於：東陽町センター)

4月29日～5月6日

東京一フrostバレーYMCA パートナシップ 30 周年記念ファミリーキャンプ

4月29日 高石ともやチャリティーコンサート

7月30日～8月2日

杉並区・瑞草（ソウル）の中高生交流プログラム

8月4～9日 東京一ソウル YMCA パートナシップサッカー交歓会

8月6～24日

ダイナミックサマーフrostバレーサマーキャンプ in NY

9月12日 国際協力一斉街頭募金

10月7日 「愛と平和のチャリティーコンサート」(明治安田生命)

11月9～15日

北京 YMCA・広州 YMCA 100 周年記念式典参加

12月5日 国際部クリスマス祝会

1月20日 ハイチ地震被災地支援街頭募金

3月14～18日

バングラデシュ YMCA 同盟理事長・総主事来訪

## 江東コミュニティーセンター

### ●総括

2009年度も江東 YMCA 幼稚園や東京江東ワイズメンズクラブと連携をはかりながら、地域活動や会員活動の展開が出来た。5月に行った「江東親睦会」では約700人、さらに「江東バザー」では約2000人の来場者を集めた。これらの運営については「新しいリーダーシップの発掘」をテーマに掲げ、館内ポスターやチラシ等で「応援ボランティア募集」を呼びかけ、常に「担い手会員」への導きを行った。

国際協力街頭募金やインターナショナル・チャリティーランへの取り組みも昨年度以上に高まり、幼稚園・ワイズメンズクラブ・コミュニティーセンターが一丸となってプログラムに取り組むことができた。



### ●特筆すべきプログラム

・会館周辺の花植えや花壇の手入れを行う「ガーデニングボランティア」のグループも徐々に定着し、定期的な活動がなされるようになった。

・2009年度の後半には「絵本や本の修理」講習会を行い、新しい活動としてスタートし、グループプログラムへと進みだした。

・インターナショナル・チャリティーランでは昨年度を1チーム上回る、3チームが江東チームとして参加した。参加費については、江東 YMCA 幼稚園保護者会・ワイズメンズクラブ・館内募金などで協力を促し、さらに応援Tシャツを作成し充当した。この事によりチャリティーランへの理解がさらに深まった。

### ●2009年度のあゆみ

- 5月10日 深川八ヶ町子ども運動会・事務局
- 5月16日 江東親睦会
- 9月23日 インターナショナル・チャリティーラン江東3チーム参加



- 11月3日 江東バザー
- 11月28日 09年度第1回ワイズサッカー杯
- 12月12日 子どもクリスマス&大人クリスマス
- 2月21日 09年度第2回ワイズサッカー杯
- 2月27日 江東・国際協力街頭募金  
(錦糸町駅前)



## 山手コミュニティーセンター

### ●総括

2009年度も東京YMCAのミッションを基軸に、山手会館の各部門との連携を強化しながら、多様なプログラム運営を行った。

特に、通年プログラムやシーズンプログラムでは、山手コミュニティーセンターの総合力を生かし、山手コミュニティースタッフが各部門プログラムや野外教育センター（山中湖センター、野尻キャンプ、妙高高原ロッジ）をサポート。事業部間を横断的に行き来し総合力を高めた。

今年度から山手会館プログラムの報告を記載した『News letter』を年3回発行。情報ツールとして活用した。また、社会人ボランティアリーダーが活動を担う新規プログラム『アウトドアシリーズ』を開始。新たな野外教育の広がりとなった。

本年度で4年目となる地域協力プログラム『わくわくサロン』は、年間で約300人余りが参加された。会員と地域住民とが協力しあい、老若男女が集い憩う場としての活動へと成長を続けている。

### ●特筆すべきプログラム

・参加対象を小学校高学年から中学生までとし、幅広くアクティブな活動を目指した新規プログラム『アウトドアシリーズ』を開始。指導者も学生ボランティアリーダーを卒業し社会人となったリーダーを中心に、年3回実施した。第1回目の活動は6月28日、荒川上流（埼玉県寄居）で、カヌー体験を行った。

・ボランティアリーダーのスキー技術・指導技術向上を目指し、今年度で2回目となる『山手リーダーズスキーキャンプ』を2月に妙高高原ロッジで実施した。山手バザー収益金などから費用の一部を助成していただいた。

### ●2009年度のあゆみ

- 4月1～3日 春の工作スクール
- 5月5日 (新) 子どもの日プログラム  
(於：高尾の森わくわくビレッジ)
- 6月6日 夏プログラム参加希望者説明会
- 6月28日 (新) アウトドアシリーズ  
(カヌー体験)



- 7月19日～8月22日  
夏季シーズンプログラム
- 9月11日～24日  
跡見学園女子大学  
インターン受入
- 9月27日 アウトドアシリーズ  
(カヌーツアー)
- 10月18日 山手会館バザー
- 12月6日 山手会館クリスマス
- 12月26日～1月6日  
冬季シーズンプログラム



- 1月10～12日  
スキー合宿Ⅰ  
ファミリースキーキャンプ
- 2月7～9日 スキー合宿Ⅱ
- 2月25～27日  
山手リーダーズキャンプ
- 3月26～30日  
春季シーズンプログラム

## 山手コミュニティーセンター・ウエルネス

### ●総括

アクアプログラムには6ヶ月の乳児から90歳までの幅広いメンバーが利用され、高齢の方は水中運動や水泳レッスンに毎週元気に通ってきている。子どもたちはプログラムを通してボランティアリーダーや他のメンバーとの信頼関係、泳法技術を身につけながら元気に毎週通ってきている。子どもの体操プログラムでは規模は小さいながらも通常クラス、夏期集中、春期集中ともキャンセル待ちの状態になるほどの状況となった。

山手の良さは保護者やメンバーとの距離が近いことにある。スタッフ事務所がロビーに隣接していることもあり、気安く声を掛け合う環境にある。今後もこの見通し、風通しの良い環境で丁寧な対応を心がけていきたい。

### ●特筆すべきプログラム

・シーズンプログラムではプールスクール、3DAYS スクール、短期水泳教室、短期体操教室、成人クラス、特別支援クラスにキャンセル待ちをしている方へのプログラムを行った。

・一人ひとりの大切な命を水の事故から守る「ウォーターセーフティキャンペーン」を行い、その大切さをメンバーに伝えた。

・プライベートレッスンを新規プログラムとして行った。キャンセル待ちが出る時間帯もあった。

・夏に日本エアロビクスセンターで水泳合宿を行った。今年で2年目。参加者も徐々に増え、好評を得た。

### ●2009年度のおゆみ

4月1～3日 3DAYS スクール  
7月1～7日 七夕週間  
7月9～15日 水上安全週間



7月16日～8月25日

夏季プログラム

7月18～19日 父と子のキャンプ

7月21日～8月4日

調布市臨海学校

8月9～11日 水泳合宿

8月20～21日 全国YMCA 少年少女水泳大会

9月28～30日 ウエルネス推進会議研修会

12月 6日 プールクリスマス会

2月11日 東日本YMCA 少年少女水泳大会

3月20日 プール体験会



## 山手コミュニティーセンター・STEP

---

### ●総括

2009年度は、保育時間・延長時間の見直しを行い、保育児に対して利用しやすい環境を設定した。それに伴い最終的に定員を越す人数の確保が出来た。

保育環境を整えつつ、様々な行事で保護者のサポート協力があった。行事を通し保育士・保護者との関係を築き、しっかりとした信頼関係を結ぶことが出来た年であった。

新宿区からの、職員研修費・防災用具等購入費の補助金を得て、保育士の研修及び保育環境の充実が図られた。



### ●特筆すべきプログラム

・今年度も国際ホテル専門学校から実習生を受け入れ、保護者からも高い評価を受けた。

・跡見学園女子大学からのインターン生を受け入れ、短い期間ながらもお散歩などの補助を中心に学びが深められた。

・定例のプログラムとして、毎月のお誕生会や避難訓練、身体測定を実施した。

・保育時間内に語学教育センターの協力を得て、英語のレッスンを行った。園児たちも英語の時間を楽しみに待ち、また保護者からも良い評価を受けた。

### ●2009年度のあゆみ

4月 1日	新年度の集い
4月18日	保育懇談会
5月13日	春の健康診断
5月16日	春の親子遠足
6月1～5日	個人面談
10月3日	秋の親子遠足



10月6日	参観日
10月18日	山手バザー出店
11月10日	秋の健康診断
11月20日	収穫感謝祭
12月12日	親子クリスマス会
2月 3日	豆まき
2月 6日	保育懇談会
3月 6日	成長を祝う会

## 山手コミュニティーセンター・語学

### ●総括

2009年度は新規受講生の獲得と既登録者の継続を目指し、季節プログラムでは、英語が好きになる子どもを多方面から育てるプログラム展開を行った。

夏には発達障がいを持つ中学生のための「みんなの英語」を新たに実施。日本人講師と外国人講師の指導で、分かりやすく楽しく英語を学んだ。7月には「英語が好きになるキャンプ」(於:山中湖センター)、9月には「わいわいタウン」(於:妙高高原ロッジ)を実施し、様々なアクティビティを通して英語を話し、聞き「生きた英語」に触れる環境を整えた。外国人講師と寝食を共にすることで、コミュニケーションツールとしての英語をより身近に感じ、異文化を自然と受け入れられる場となった。

韓国語クラスは入門クラスを新しく開講した。また日本語クラスも小規模ながら、コンスタントに開講することができた。

### ●特筆すべきプログラム

・7月19日～20日で「英語が好きになるキャンプ」(英語キャンプ)を実施。(山中湖センター)。7月23日～25日で「みんなの英語」(発達障がいを持つ中学生のための英語クラス)を実施。9月19日～21日で「わいわいタウン」(英語キャンプ)を実施。(妙高高原ロッジ)

・季節プログラム、通常クラス両方においてアンケートを実施。参加者からの意見や要望を伺い、改善を図った。

・新たなシーズンプログラムは、定員に達したものと定員に達しないものと両方あったが客観的に評価し次年度へと続ける。

・子どもクラスハロウィンパーティー(10/31)では地域の子どもたちにも異文化に触れてもらえるよう安価で実施。50名以上の参加者があった。

・6月、11月、2月に語学クラス受講生、語学プログラム参加者へ向けてビッグデイアウトを実施。英語講師と一日郊外へ出かけることにより英語がより身近となるよう工夫。サービス向上を目指した。



・7月、12月に TOEIC IP テストを実施した。

### ●2009年度のあゆみ

4月 6日～ 春期開講

6月15～27日

成人クラスコーヒブレイク

6月28日 ビッグデイアウト

(葛西臨海公園)



7月 8日 TOEICIP テスト

7月19～20日

英語が好きになるキャンプ

7月25日 TOEICIP テスト

7月～8月 夏期子どもプログラム

9月19～21日 わいわいタウン

## 山手コミュニティーセンター・学舎

### ●総括

YMCA の重要な運動の一つである「山手学舎」は、キリスト教主義に基づく大学生寮として 1954 年に設立し、これまでに 210 名を超える様々な人材を輩出してきた。山手学舎は単なる寮生活ではなく、学生自身で自治運営をしている。人との関わりが希薄な現代社会において経験しにくい他者との共同生活の場があり、夢や希望を持った若者が勉学に励み、また YMCA 青少年プログラムへのボランティア活動にも参加している。

2009 年度は 14 名の舎生、山手学舎 OB 会、山手学舎後援会が学舎の運営を支え、充実した寮生活が営まれた。また、今年度も東京山手ワイズメンズクラブからの援助もあり、多くの方のサポートを実感し感謝しながら寮生活を過ごした。

山手学舎の運営については、後援会も支援を行い、積極的な学舎運営を行っている。

11 月には 55 周年記念会を行い、山手学舎の歩みと存在意義を再確認する良い機会となった。

### ●特筆すべきプログラム

・毎月 1 回「舎生懇談会」を実施。共同生活をしていく中での共通理解や行事の確認、自由討論、また親睦を深めていく時間も設けた。

・毎月 1 回「聖書研究会」を実施。日本バプテストキリスト教目白ヶ丘教会の古賀公一牧師を招き、基本的な生き方を学びそれを活かしていくことを目標に行った。

・近隣の信愛学舎、友愛学舎と山手学舎で交流を深める行事「三学舎交流会」を実施。スポーツ大会と親睦会を開催した。

・新入舎生との交流を深める大イベントである「学舎旅行」(於：千葉県勝浦)では釣りやバーベキューなどを楽しんだ。

・設立 55 周年記念 OB 会及び後援会総会を 11 月 14 日に山手コミュニティーセンターで行った。記念礼拝では学舎 OB の篠沢俊一郎牧師に、記念講演では学舎 1 期生の井上義祐氏にメッセージをいただいた。



### ●2009年度のあゆみ

4月25日	入舎式
5月10日	三学舎交流会
5月23～24日	学舎旅行
9月12日	国際協力街頭募金活動参加
9月23日	インターナショナル・チャリティーラン参加
10月18日	山手バザー参加
11月14日	山手学舎 55 周年記念会 山手学舎後援会総会・OB 総会
12月 6日	クリスマス会
12月 8日	忘年会 (古賀公一牧師を招いて)
3月 6日	退舎式



## 山手コミュニティーセンター・杉並

---

### ●総括

現在は建物としての拠点は持たないが、2009年度も会員の方々を主体とした熱意あふれる活動「妙正寺フィットネス」「ひだまり体操クラブ」「WHO」（ウォーキング・ホリデイ・荻窪）、そしてバザー、クリスマス会等を展開した。

他方、活動拠点を離れて10年を経たことで、杉並YMCA自体の活動を経験していない人たちの参加もあり、今後の活動のリーダーシップをどのように継続していくのかなどの課題も見え始めた年度でもあった。

### ●特筆すべきプログラム

・例年、障がい者週間に実施される、杉並区の「うえるふえすた2009」に参加する形でバザーを行っている。今年はフィットネスの方々を中心にした献品市、リーダーOB・OGを中心とした焼きそばに加え、ワイズメンズクラブの人たちを中心にもう一つ献品市を出店して頂くことができ、20万円を超える収益を山手コミュニティーセンターLDプログラムのためにご寄付頂いた。昨年度実施した「山中湖キャンプ」の名残もあってか、例年以上に多くのリーダーOB・OGが訪ねてくれ、楽しいひとときを過ごすことができた。

### ●2009年度のあゆみ

12月6日 杉並バザー  
(うえるふえすた2009へ出展)  
12月17日 杉並クリスマス

- ・ 妙正寺フィットネス (毎週木曜日)
- ・ ひだまり体操クラブ (ほぼ毎週水曜日)
- ・ WHO (毎月1回)

●総括

4月から1名のスタッフを新たに採用し、運営基盤を強化した。

企業・団体より助成金をいただき、新たなプログラム開発に努めた。結果として、調理関係、IT関係の備品の充実が図れたと同時に、新たなデイキャンプ、夏のキャンプを実施し、プログラムの幅を広げることができた。これらを財産として、2010年度のさらなる活動の充実を図っていききたい。



●特筆すべきプログラム

【アートブログの開設】

子どもたち、若者たちがのアート作品をブログで公開した。これが呼び水となり、会員週間「芸術祭」に出展したり、場の中での制作活動が活性化されたりすることに繋がった。

【新しい若者支援事業】

講演会の実施、若者サロンの設置、機関誌の印刷など3事業を行うことができた。若者サロンの設置では、特にIT環境の向上と、調理のプログラムのための機器の充実が図られた。また機関誌を年4回カラー印刷で発行することができた。

【はじめての野外体験キャンプ】

キャンプ経験のない、あるいは、敷居が高いと感じているであろう子どもたちを対象に「はじめての野外体験キャンプ」を実施した。

●2009年度のあゆみ

- 6月11日 liby 連続教育講演会：  
日本キリスト教協議会教育部  
総主事 大嶋果織氏  
「教会学校の歩み～NCC 教育部  
100年の歩みとともに～」
- 7月 アートブログオープン
- 7月29～30日 はじめての野外体験キャンプ
- 8月2～4日 はじめての野外体験キャンプ
- 10月～ デイキャンプ「ドーナツ」開始  
クラブ liby 開始
- 10月10日 講演会：林試の森クリニック  
石川憲彦氏  
「精神科医が見た！現代の子ども・若者・家族」
- 10月30日 教育講演会：都留文科大学  
副学長 福田誠治氏  
「競争やめたら学力世界一～フィンランド教育の成功」
- 11月3日 講演会：ベーシックインカム・  
実現を語る会代表 白崎一裕氏  
「ベーシックインカム（基礎所得保障）と若者について考える」
- 11月20日 教育講演会：品川区立大崎中学校  
校長 浅田和伸氏  
「文科省キャリアから公立中学校  
～新しい学校づくりへの挑戦～」
- 1月10～11日 第2回日本フリースクール大会
- 1月30日 講演会：自立サポートセンター  
「もやい」 中村あずさ氏  
「生活保護をめぐる一働くこと、働かないこと」
- 2月27日 チャリティーコンサート

## 東陽町コミュニティーセンター・ウエルネス

### ●総括

少年クラスは前年に比べ、水泳クラスの人数が増加したが、フロアクラスの落ち込みがあり、前年並みの人数となった。一方、成人メンバーも減少傾向にあるが、テニスやスカッシュなどの講習会の人数が増加してきている。夏期プログラムより Web を用いた予約システムを稼働させ、参加者の利便性を図った。

前年度に引き続き、高齢者を対象に4つの江東区社会福祉館で「健骨・健脳体操」指導を行い、地域での働きをすすめることができた。一人ひとりの大切な命を水の事故から守る「ウォーターセーフティキャンペーン」を実施。その大切さをメンバーに伝える活動を行うなど、子どもから大人までウエルネスセンターの特性を活かした事業を展開した。

### ●特筆すべきプログラム

・練馬区の中学校 19 校（約 2000 名）の生徒に臨海学校の指導を行った。

・前年度に引き続き、中央区の小学校の臨海学校指導を受託し、16 校（約 900 名）の指導を行った。

・医療福祉専門学校の学生、船橋市民大学の受講者を対象に『YMCA こつこつゆうゆう介護予防プログラム』の指導者養成講習会をそれぞれ開催した。

・YMCA オリーブ保育園、芝浦アイランドこども園の体育指導をスタート。

・デンマーク体操ボランティア指導者の堀内浩二氏（会員）の指導歴 60 年を祝った。

・首都圏直下型地震について学び、地域ネットワークを強めることを目的とした「災害ワークショップ」を開催した。

・インターナショナルチャリティーランに、館内参加者やワイズメンズクラブのご協力を得て募金を行い、「チーム深川」として1チーム参加することができた。当日は半纏を着て走り、コスチューム賞を受賞した。

### ●2009年度のおゆみ

4月 9日 チャリティーゴルフ大会

6月19～21日

オール東京夏季リーダー実技  
トレーニング①

6月26～28日

オール東京夏季リーダー実技  
トレーニング②

7月9～15日 水上安全キャンペーン



8月21～21日

全国 YMCA 少年少女水泳大会

9月23日

インターナショナル・チャリ  
ティーラン東陽町チーム初参加

11月16日

第1回災害ワークショップ



12月6日 軽度発達障がい児クラス講演会

12月17～20日

オール東京冬季リーダー実技  
トレーニング

12月23日

クリスマスオープンハウス

2月11日

東日本 YMCA 少年少女水泳  
大会

2月27日

陽春の集い

3月18～21日

オール東京春季リーダー実技  
トレーニング

## 東陽町コミュニティーセンター・認証保育所

---

### ●総括

東陽町 YMCA 保育園（東京都公認認証保育所：0～2 歳児、定員数 30 名）では、キリスト教保育に基づいて、「今のときを喜びをもって生きる」を土台とした保育を実施してきた。開園より 8 年目を迎え、保育者の定着により、障がい児の受け入れや弾力化運営などの要望に応えることが可能になり、保育内容の充実は運営方針である『こどもを取り巻く人々が共に育ちあう保育園』に向かって着実に前進していることを実感できた 1 年であった。

1 階ホールを共有している英語幼児園のお餅つきで初めてみたお相撲さんに驚いたり、フルーツと歌のコンサートでは大好きな歌を大声でうたったり、地域中学校の職場体験実習で 6 名の中学生の実習を受け入れるなど、多様な活動を行う複合施設の利点を活かして、異年齢児との交流をする機会を多く持つことが出来た。

新型インフルエンザの影響で、地域との交流の機会は減少した年であったが、次年度に時期を見て、再開する予定である。

### ●特筆すべきプログラム

・子育て支援プログラム「ほっとするコーヒーやさん」（お迎え時の保護者同士のふれあいの場）を月に 2 回行った。参加費として 1 回 100 円をお預かりし、緊急災害支援募金や国際協力募金として用いさせていただいた。多忙を極めている保護者が社会問題に触れる場としても話題を提供していきたいと考え、今年度から認証保育所外部のホールに場所を移した結果、卒園児や入園希望者の参加も多くみられた。

・家族で参加する「ふれあい DAY」は、雨のため、保育園前のホールで行った。日頃保育園との関わりの少ないお父さんの参加が多く、綱引きなど白熱したプログラムとなった。

・「教育シンポジウム」（11 月 14 日）では、0 歳児から 2 歳児までの託児を請け負った。

### ●2009 年度のあゆみ

4 月 1 日	保育開始（導入保育開始）
4 月 4 日	入園・始園式
5 月 10 日	東京 YMCA 児童保育全体職員会
5 月 16 日	保護者会
9 月 4 日	非常災害時引取り訓練
10 月 3 日	ふれあい DAY
10 月 17 日	入園説明会
10 月 12～30 日	個人面談
11 月 14 日	入園説明会
11 月 14 日	教育シンポジウム
11 月 19 日	収穫感謝祭
12 月 12 日	入園説明会
12 月 16 日	クリスマス礼拝・祝会
1 月 22 日	運営委員会
3 月 20 日	成長を祝う会

\* 「ほっとするコーヒーやさん」

6 月 12 日、26 日、7 月 10 日、24 日、  
8 月 28 日、9 月 11 日、25 日、10 月 9 日、  
11 月 13 日、27 日、12 月 18 日、  
1 月 15 日、2 月 26 日、3 月 5 日、12 日

## 南コミュニティーセンター・東京町田YMCA

### ●総括

#### 【南コミュニティーセンター】

2009年度も“*We build strong kids, strong families, strong communities*”を中心に、子どもたちからシニアの方々へ様々なプログラムを提供してきた。夏の「ファミリーキャンプ」や秋の「ファミリーフェスティバル」も定着し、次のステップとして冬の「ファミリーキャンプ」を企画・実施した。

「YMCA すずらん会」から始まった歌の会の輪も広がりを見せ、地域や他のコミュニティーセンター、他YMCAにまでも波及している。

野外事業では苦戦を強いられたが、多くのプログラムで会員やリーダーと共に地域での活動を展開することができた。このリーダーシップを活かして、次年度につなげたい。



#### 【東京町田YMCA】

オフィスを持たず、会員が主体となって地域密着型のプログラムを展開した。人材の発掘と新しいプログラム開発に力を注ぎ、近隣の大学に足を運んで、友好的な関係を築きはじめてきている。「歌声ひろば」の参加が毎回100名を超え、町田地域での盛況なプログラムに成長した。

### ●特筆すべきプログラム

・南コミュニティーセンター、日本キリスト教団東京都民教会(下北沢)、東京町田YMCA(シャロームの家)のそれぞれにおいて行われている「歌声ひろば」の合同バスハイクを、高尾の森わくわくビレッジで開催。100人の美声が高尾の森に響きわたった。

### ●2009年度のおゆみ

- 5月2～4日 リーダーズキャンプ
- 5月12日 歌声ひろば(経堂・下北沢・町田) 合同バスハイク
- 7月3日 「みんなのうたごえサロン」 (世田谷区社会福祉協議会)
- 7月25日～8月20日 夏季シーズンプログラム
- 10月2～30日 第15回ベテランティアフォーラム(町田)
- 10月13日 「みんなのうたごえサロン」 (世田谷区社会福祉協議会)
- 10月25日 バザー
- 10月30日 ハロウィンパーティー
- 12月6日 ファミリーフェスティバル
- 12月12日 世田谷・目黒子どもクリスマス
- 12月12日 東京町田YMCA市民クリスマス会
- 12月26～30日 冬季スキーキャンプ
- 2月13日 国際協力街頭募金(経堂駅前)
- 2月14日 国際協力街頭募金(町田駅前)
- 3月26～30日 春季スキーキャンプ

- \* ユーモアスピーチ世田谷(第2木曜日) 日常の出来事をユーモアを交えて語り合う “笑って楽しい3分間”
- \* YMCA すずらん会(第4金曜日) 童謡や唱歌を歌う、地域交流を目指す会
- \* Yわい会(町田/第2火曜日) 独居老人の方とお話する会
- \* ベテランティア(町田/第2月曜日) 人生のベテランの方たちを中心としたボランティアサークル
- \* 歌声ひろば(町田/第2土曜日) 童謡や唱歌を歌う、地域交流を目指す会
- \* わくわく科学実験教室(町田/第3土曜日) 社会人ボランティアの協力で、身近で楽しい科学実験を子どもたちに提供

## チャイルドケアセンター

### ●総括

2009年度は創立時からの室長の交代と、2名の保育者の入れ替わりという状況からスタートし、ベテランの保育者を中心に保育を進め、無事に年度を終了することができた。年度当初は0歳児5名、1歳児8名、2歳児7名の（合計20名）定員一杯であったが、途中で4名が認可保育園転園や引越し等の理由で入れ替わるも、待機児を受け入れ、定員を維持することができた。チャイルドケアセンターを3歳で卒園後必ずしも認可保育園に入れる保証がないことから、卒園年齢を待たずに他保育園へ移る傾向が増加したように思う。

7月には南自由が丘商店会のイベントにブースを出して参加。12月には保護者の方々の協力により、「第2回YMCA親と子のハーモニーコンサート」を開催するなど、今年度も地域の中での働きができた1年であった。

### ●特筆すべきプログラム

・12月12日に「第2回YMCA親と子のハーモニーコンサート」を実施した。7月より在園児保護者で実行委員会を組織し、企画、チケット販売、広報、当日の運営などを担っていただいた。また卒園児保護者にも出演依頼をしていただくなど、広報でも多大な協力をいただいた。昨年引き続き玉川聖学院には会場提供を、地域商店街からはポスターの掲示や協賛広告を、東京白金高輪ワイズメンズクラブの皆さんには当日の警備をと、それぞれにご協力をいただいた。当日はプロの音楽家を迎え、本格的かつ子どもたちにも楽しめる内容のコンサートとなった。卒園児・在園児とその家族、近隣の親子連れなど、600名を超える来場者数となった。コンサートの収益金はチャイルドケアセンターの備品購入と次回のコンサート実施のために用いさせていただくこととなった。

### ●2009年度のあゆみ

- 4月 4日 入園・始業礼拝
- 4月 6日 新入園児保護者説明会
- 5月 8日 1・2歳児保護者会
- 5月15日 0歳児保護者会
- 6月22日～7月3日 保護者保育参加
- 7月19日 フェスタ・デ・すいか割り



- 8月29日 クリーンデイ
- 9月28日～10月9日 個人面談
- 10月3日 プレイデイ
- 10月16日 1・2歳児保護者会
- 10月20日 2歳児園外保育
- 10月30日 0歳児保護者会
- 11月16～20日 保育者保育参加
- 11月17日 収穫感謝礼拝



- 12月12日 YMCA親と子のハーモニーコンサート
- 2月 5日 全クラス合同保護者会
- 2月16日 2歳児園外保育
- 3月20日 成長を祝う会

## 西東京コミュニティーセンター

### ●総括

知的障がい児・者を対象としたプログラム、LDおよび周辺児支援プログラムについては、引き続き高いニーズを保っている。健常児の活動は、昨年度の幼児活動が好調であったことが好影響し、小学生への継続率が高かった。

地域諸団体との協働プログラムについては、武蔵野・三鷹地域超教派プログラム「0422クリスマス」の事務局を担った。また社会教育委員の会（国立市）への参加などの協力を引き続き行った。

会員活動では、ファミリークリスマスが110名を越える参加者を集めたほか、ファミリーフェスティバルなどを開催した。昨年度から取り組んだ「音訳ボランティア」の勉強会は若年層から中高年層の幅広い参加者を開拓し、クリスマスで朗読を行うなど定着したプログラムに発展しつつある。



### ●特筆すべきプログラム

・「音訳ボランティア勉強会」は国立あおやぎ苑での訪問朗読やファミリークリスマスでの朗読を行いながら、安定した活動を展開できた。東京都立八王子盲学校と連絡をとりながら、実際に録音をしたCDを提供することも出来た。

・今年度も障がい児・者プログラムへの企業からの寄付をいただき、寄付・助成金の総額は収入の約10%となった。

・LDとその周辺児・者のためのASCAクラスでは、10月に社会生活の中で役に立つ本「LD・ADHD・高機能自閉症へのライフスキルトレーニング」を出版した。

### ●2009年度のおゆみ

- 4月17日 ボランティアリーダー説明会
- 5月3～5日 ユースジャンボリー
- 5月21日 ボランティアリーダー説明会
- 6月12日 ボランティアリーダー説明会
- 6月23～24日  
実技リーダートレーニング
- 7月～8月 サマープログラム
- 9月21日 サマープログラム報告会
- 9月27日 ボランティアリーダー説明会
- 10月4日 バリアフリーマップ実地踏査会



- 11月3日 ファミリーフェスティバル
- 12月5日 西東京センタークリスマス
- 12月12日 0422クリスマス
- 12月18～21日  
スキーリーダートレーニング
- 12月26～30日  
ウィンタープログラム
- 2月21～22日  
障がい児・者スキーリーダートレーニング
- 3月18～21日  
スキーリーダートレーニング
- 3月23～25日  
スプリングプログラム1
- 3月26～30日  
スプリングプログラム2

## 国際ホテル専門学校

### ●総括

1935年に創立した東京YMCA国際ホテル専門学校も74年の歳月を歩み、2010年3月の卒業生を含めて11,097名の卒業生を輩出した。2009年度はホテル科1年72名、2年99名・ホテル専攻科8名・ホテル実務科23名、合計202名の在校生でスタートした。

就職では新卒者の採用枠が非常に狭くなり、学生たちはこの10年で一番厳しい就職活動を強いられる年となった。2010年度に向けての学生募集は順調に推移し3学科合わせると30名程多い学生を確保することができた。

国際協力募金・チャリティーラン・山手会館バザーなどの全東京YMCAプログラムに学生が多く関わることができ、YMCAらしいホテル学校としての活動ができた。特に山手センターのコミュニティー活動に学生がボランティアリーダーとして参加する機会も増え、他の専門学校では得ることができない学生たちにとって豊かな経験を積み重ねた1年となった。

### ●特筆すべきプログラム

・9月14日～2月19日まで5ヶ月間に及ぶホテル実習を実施した。

・9月12日の国際協力一斉街頭募では、約200名の学生が参加した。

・9月23日のインターナショナル・チャリティーランでは、学生が初めて模擬店のお手伝いを行った。

・10月18日の山手会館バザーにホテル科2年生が模擬店を出店した。

・12月11日からヨーロッパホテル観光研修を実施し、93名が参加した。

### ●2009年度のあゆみ

4月 3日 入学式  
4月7～9日 新入生オリエンテーション合宿  
4月13日 1学期開始  
5月 7日 球技大会  
7月16日～ リゾートホテル実習



7月18日～ 北米語学・ホテル研修  
8月31日～9月3日 野尻湖スポーツ合宿  
9月 7日 2学期開始  
9月14日～11月25日 前期ホテル実習  
9月23日 インターナショナル・チャリティーラン参加  
10月12日 会員ソフトボール大会参加  
10月18日 山手会館バザー  
11月27日 前期実習報告会  
12月7日～2月19日 後期ホテル実習  
12月11～24日 ヨーロッパホテル・観光研修旅行  
1月 7日 3学期開始  
2月22日 後期実習報告会  
2月23～25日 就職セミナー  
3月12日 卒業審議会  
3月19日 卒業式



## 社会体育・保育専門学校

### ●総括

体育科 241 名・保育科 94 名・専攻科 1 名  
合計 336 名の学生でスタートし、社会体育・  
保育専門学校にとって 30 期生を迎え、創立  
30 周年を記念する年となった。11 月 3 日に  
記念礼拝を持ち、校友会主催の 30 周年記念  
祝会には 200 名を超える卒業生が集結し、  
盛大な記念会を挙行することができた。

国際部と連携し、渋谷駅周辺での国際協力  
街頭募金や東京駅丸の内付近でのハイチ地  
震被災地支援街頭募金、東陽町駅前でのハイ  
チ・チリ地震被災地支援街頭募金に有志ボラ  
ンティアとして学生が参加。さらにフロスト  
バレーでの 12 月スキーキャンプのボラン  
ティアリーダーとして 2 名を派遣することが  
できた。

### ●特筆すべきプログラム

・11 月 3 日に「創立 30 周年記念礼拝並びに  
記念祝会」を東陽町センターで開催した。記  
念礼拝は齋藤總衛初代校長の祈禱により開  
会、廣田光司総主事より「神様に守られて 30  
年」との奨励がなされた。校友会（4500 名の  
卒業生）主催の祝会は創設期メンバーのジャ  
ズダンス「マジックナイト」や保育科の学生  
による「3びきの子ぶた」の公演等卒業生、  
同伴の子どもたち、歴任教員が 200 名以上集  
結し大いに盛り上がりを見せた会となった。



・30 周年を記念して 30 周年史とリーフレッ  
トを編集、記念グッズを含め販売した収益を  
新設した「30 周年記念奨学金ファンド」の一  
部に充てることとなった。

### ●2009 年度のおゆみ

- 4 月 2 日 始業式
- 4 月 3 日 入学式
- 4 月 4～6 日 新入生オリエンテーションキャン  
プ（山中湖センター）
- 5 月 1 日 全校ドッチボール大会
- 7 月 11～15 日 野尻キャンプ実習 I
- 7 月 17～21 日 野尻キャンプ実習 II
- 8 月 29 日～9 月 1 日  
保育科：山中湖野外実習 I



- 9 月 12 日 国際協力一斉街頭募金へ参加
- 10 月 11 日 第 1 回入学試験
- 11 月 3 日 30 周年記念礼拝・祝会
- 11 月 6 日 体育祭
- 12 月 14 日 ハイチ地震被災地支援募金へ参  
加
- 2 月 6 日 さくらキャンペーン街頭募金へ  
参加
- 2 月 12 日 卒業研究発表会
- 2 月 22～25 日  
体育科：スノースポーツ実習
- 2 月 26～27 日  
保育科：野外実習
- 3 月 9 日 卒業式

## インターナショナルスクール・T Y I S

---

### ●総括

11月にWASC（米国西部地域学校大学協議会）の審査があり、認証を受けることができた。本校の教育レベルを一定水準以上に保つことが求められる一方で、ミッションの明確化、カリキュラムの質の向上、入学する生徒の十分な把握、教師の教育などにおいて、大きな飛躍の機会を与えられることとなった。同時に、教師・担当スタッフ・YMCAが一丸となって取り組む体制がさらに求められるスタートの年度となった。

他のインターナショナルスクールや団体、大使館などとの相互コミュニケーションを図り、課外授業など様々な学習の機会を子どもたちに提供できるよう努めた。

### ●特筆すべきプログラム

・ESL（English as a Second Language＝英語を母語としない人のための英語教育）の充実を本校の特色とするために、各科目のカリキュラムやクラスアクティビティーと連動したESLプログラムの開発に取り組んだ。

・バスケットボール、サッカーチームによる他校との交流が活発になり、3月にはバスケットボール女子チームが東京地区のインターナショナルスクールによるトーナメントで優勝を果たした。

・2月に実施したカルチャーウィークでは、ヨルダン大使夫人やハンガリー大使館料理人がボランティアで子どもたちに料理や文化を披露してくださった。

・ジャパントイムズ社主催のスペリングコンテストへの参加、本校サイエンスクラブコンテスト審査員として他校教員の招待、開成学園中学での化学実験授業など、他団体との取り組みを推進した。

### ●2009年度のあゆみ

4月17日 春の音楽祭  
5月23日 運動会  
6月18日 卒業式  
8月21日 始業式  
9月17日 授業参観  
10月14～16日 秋季山中湖キャンプ



12月17日 クリスマスコンサート  
1月19～22日 スキーキャンプ  
2月15～19日 国際理解週間



## 東陽町語学教育センター

### ●総括

2009年度はキッズガーデン（英語幼稚園）、キッズ英語クラスで、より魅力的なプログラム内容の検討や、インターネットを利用した広報力の強化など、取り組むべき課題を明確にし、変革に取り組んだ1年でもあった。昨年度に引き続き、国際理解教育・地球市民教育の一環としてキッズガーデンでの国際協力募金活動や、地域の子どもたちも対象に含めたインターナショナルデーなどの取り組みも実施し、英語教育にYMCAとしての特色を加えることで、東京YMCAの使命を実現することにも力を注いだ。



### ●特筆すべきプログラム

・キッズガーデンの夏季・春季プログラムを実施し、多数の子どもたちの参加があった。

・7月に新規イベント「International Day」（小学生、帰国生対象）を実施。諸外国から集まる講師陣が各国の文化を紹介し、「異文化を知る楽しさ」「英語を使う楽しさ」を伝える機会となった。

・各種イベントへのボランティア参加（中学生～成人）が増加。「International Day」参加の中学生は12月に行われた「English Communication Project」（日本YMCA同盟主催）に参加した。

・ハワイ島YMCA・ウクライナYMCAの子どもたちとのクリスマスカード交換を行った。

・キッズガーデン園児による、東陽町センター・社会体育・保育専門学校でのクリスマスキャロリングを実施した。

### ●2009年度のあゆみ

#### 【キッズガーデンクラス】

- 4月 8日 入園式・始業式
- 5月 9日 ファミリーピクニック
- 7月17日 インターナショナルデー
- 9月12日 国際協力一斉街頭募金へ参加
- 10月30日 ハロウィン
- 11月10～11日 年長組お泊りキャンプ
- 12月11日 クリスマスマュージカル
- 12月15日 クリスマス祝会・キャロリング
- 2月 4日 餅つき
- 2月14日 運動会
- 3月16日 卒園式・進級式

#### 【キッズ英語クラス】

- 4月 7日 クラス開講
- 7月中旬 オープンクラス
- 7月18日 インターナショナルデー
- 7月下旬～8月下旬 夏季プログラム  
「English Fun!」「KG Summer School」  
「Kids International Summer」  
「Kids' World Reporters」他
- 10月31日 ハロウィンパーティー
- 12月初旬 海外YMCAとクリスマスカード交換
- 12月中旬 発表会  
(小学生・Returnee5Hours)
- 12月下旬 冬季プログラム  
「Christmas Fun!」  
「Kids International Winter」他
- 1月初旬 進級テスト(小学生・帰国生)
- 3月中旬 学期末発表会(幼児・帰国生)
- 3月下旬 春季プログラム  
「KG Spring School」「Kids International Spring」  
「Returnee Spring School」「Returnee Writing Intensive Course」

## 野尻キャンプ

---

### ●総括

2009年の夏も多くの学生ボランティア、社会人ボランティアやOBの方々に支えられ大きな事故や怪我がなく夏をすごすことができた。

野尻キャンプでは東京YMCA主催の4つの組織キャンプの展開と、指導者の養成のモデルとなるよう励んできた。特に長期キャンプの必要性と小集団活動の有効性を発揮できるものであった。

簡素な生活をとおしての野外教育活動は看護学校や大学などYMCA以外の団体にも受け入れられてきている。

今年は台湾よりICCPJ (International Camp Counselor Program Japan) のユースボランティアリーダー3名を受け入れた。

### ●特筆すべきプログラム

・指導者の養成として、6月に東京YMCA主催キャンプのボランティアリーダー、茨城YMCAのボランティアリーダー、東京YMCA社会体育・保育専門学校の2年生の学生助手の合同のトレーニングを実施した。

・社会体育・保育専門学校や国際ホテル専門学校での研修の場として活用された。YMCAの専門学校ならではの体験である。

・今年もOBの方々の力によりワークキャンプを実施し、階段の補修や樹木の整備をすることができた。

### ●2009年度のおゆみ

5月2～5日	野尻ワークキャンプ
6月12～14日	開荘ワークキャンプ
6月19～14日	リーダートレーニング
7月10～12日	OBワークキャンプ
7月26日～8月1日	きつつきキャンプ
8月1～7日	野尻小学生キャンプ
8月7～21日	第74回野尻学荘
8月21～27日	ふくろうキャンプ
8月21～27日	CIT キャンプ (Counselor in training)
9月19～22日	閉荘キャンプ



## 山中湖センター

### ●総括

2009年度は通年営業も2年目となり、山中湖センターや近隣で行えるプログラムも少しずつ定着した。雪遊び、ワカサギ釣り、そば打ちなど冬ならではの山中を楽しんでもらえ、昨年度を上回る利用者を得ることができた。ホームページのリニューアル効果が出た年であり、ホームページを見ての問い合わせも増加した。

食事、プログラム提供など利用者の要望も増え、多様化してきた。食事面やプログラムの充実を図るべく見直しを始めた年であった。次年度も近隣と協働しながら、年間を通じたプログラムを提供していきたい。



### ●特筆すべきプログラム

・夏季はブルーリッジYMCAから名と ICCPJ (International Camp Counselor Program Japan) から台湾の大学生3名をボランティアとして受け入れた。それぞれ1ヶ月という長期にもかかわらず利用者との交流も図りながら良き働きをしてくれた。

### ●2009年度のあゆみ

- 4月15～16日 北京YMCA訪問団受入れ
- 5月2～4日 南・西東京センター合同リーダートレーニング
- 6月12～14日 フレンドシップキャンプ・手足の不自由な子のキャンプ
- 6月20～21日 西東京センターリーダートレーニング
- 6月26～28日 オール東京リーダートレーニング
- 7月10日 山中保育所キャンプ指導
- 7月11日 平野保育園キャンプ指導
- 7月25～29日 山中ビレッジキャンプ受け入れ
- 7月29日～8月2日 第78回山中家族キャンプ
- 8月2～6日 フレンドシップキャンプ
- 8月6～11日 手足の不自由な子のキャンプ
- 9月25～27日 ユースボランティアリーダーズフォーラム
- 10月10～12日 秋の山中湖キャンプ受入れ
- 10月17日～18日 インターナショナルキャンプ受入れ
- 12月5日 山中湖地域こどもクリスマス会



## 妙高高原ロッジ

### ●総括

2009年度も大きな事故や怪我もなく無事終えることができた。東京YMCAの研修センターとしてリーダートレーニングやキャンプの受け入れができた。この夏には2年目となるICCPJ (International Camp Counselor Program Japan)のプログラムで台湾より3名の指導者を受け入れた。大変熱心に業務や指導に励んでくれた。

今年度は家族での利用をアピールし、年間を通じての利用があった。社会体育・保育専門学校やインターナショナルスクール・TYISの研修受け入れのほか、国際ホテル専門学校の学生の体験も受け入れることができた。団体の受け入れとして、教会、幼稚園、看護学校などにも用いていただいた。



### ●特筆すべきプログラム

・長野市近郊の教会関係の子どもたちを対象とした「チャレンジキャンプ」をこの夏も主催することができた。

・妙高ロッジ主催、お正月の「家族スキーキャンプ」はこの冬も多くのご家族の参加を得て有意義に実施できた。

・スキーのトレーニング指導の協力をされているリーダー・OBを対象とした「指導のためのトレーニング」が妙高ロッジで行われた。

・昨年に続き、「全国YMCAスキーディレクタートレーニング研修会」を妙高ロッジで受け入れることができた。

### ●2009年度のあゆみ

- 7月13～18日 森村学園夏期キャンプ
- 8月10～12日 主催チャレンジキャンプ
- 8月14～16日 南センターファミリーキャンプ
- 12月26～30日 山手センタースキーキャンプ



- 12月31日～1月3日 ファミリースキー
- 1月25～29日 全国スキー研修会
- 2月12～14日 江東センターファミリーキャンプ
- 2月26～28日 OBスキートレーニング
- 3月18～21日 スキーリーダートレーニング

## YMCAキャナルコート保育園

---

### ●総括

2009年度はYMCAキャナルコート保育園として変遷の年であり、園長、主任の交代、保育職員の入れ替わりなど、一歩からのスタートとなった。

4月の入園式では、YMCA保育園としての使命を見据えて、牧師先生の奨励を行った。また、年間を通じた指導計画の見直し、日常の指導計画案をより詳細なものとするべく日々の見直しと評価を加えるよう努めた。

前期は、同一職場に集う者としての信頼関係の構築と新型インフルエンザへの対応に苦慮した時でもあった。後期は、安定感を取り戻し日々の保育に、より厚みを持つことができた。定期的に職員会も開催し、児童福祉推進会議で示されているチャイルドケア要領などを用い、より良い園づくりに努めた1年であった。

### ●特筆すべきプログラム

・親子の絆が希薄になりつつあるこの時期に、保護者と子ども、保育士と園児が触れ合うきっかけとなる親子遠足等を企画した。(雨天の為中止)

・園児の保護者にプール設営のボランティアをお願いし、園活動の一翼を担っていただいた。終了後懇親会を持ち、忌憚のない意見交換ができた。保護者と園の方向性が共通理解されることが非常に重要なことから、新たな運営の方向性を導くための有意義な活動となった。

### ●2009年度のあゆみ

4月 1日	入園式
6月17日～	各クラス懇談会
7月 3日	夏祭り
7月 4日	プール設営
7月 9日	プール開き
7月30日	スイカ割り大会
7月31日～8月1日	ぞう組お泊り保育
9月26日	運動会
10月16日	芋ほり遠足
10月20日～	各クラス懇談会
11月5日	収穫感謝祭



12月5日	生活発表会
12月22日	クリスマス礼拝・祝会
12月25日	クリスマス会
2月17日～	各クラス懇談会
2月27日	新入園児面談
3月19日	卒園式

## YMCAオリーブ保育園

### ●総括

2009年度は開設5周年にあたり、年間を通してお祝いの行事を行ってきた。保護者参画の行事には、多くの保護者の参加があり、懇親を深めることができた。

今年度から東陽町ウエルネスセンターと提携し、月に1回、幼児対象の体操クラスを行い、子どもたちの体力増進を図っている。英語クラス同様に保護者からも期待されている。

地域の子育て支援も積極的に行い、新たに豊洲子育て支援センターで、「みずべのサークル支援プログラム」を行った。講演会や保育所体験など地域親子のプログラム参加者数が増えてきている。



### ●特筆すべきプログラム

・開設5周年記念運動会では、吹奏楽団の生演奏や保護者有志の演奏、職員が作った、子どもたちのダンス「ゴーゴー、オリーブキッズ！」披露するなど盛大に行うことができた。

・焼き芋大会、魚の解体ショー、腹話術サークルの講演会などの行事を初めて取り入れたが、子どもたちにとって、どれも心に残る楽しい思い出となったようである。

・4、5歳児が東京都サッカー協会による出張教室を受けたり、YMCAキャナルコート保育園児とのリレーやドッジボールなどの交流のほか、近隣のひばり幼稚園に招待され一緒に遊んだり、東雲小学校の1年生との地域交流を広げることができた。

### ●2009年度のおゆみ

4月4日	入園式・クラス懇談会
4月10日	イースター礼拝
5月16日	プレイデー
6月15日	花の日礼拝



7月17～18日

年長児山中湖キャンプ

7月24日 夕涼み会

9月1日 引渡し訓練

10月3日 運動会

10月22日 お芋堀り遠足

10月27日 焼き芋大会

10月29日 ハロウィンパーティー

11月13日 魚の解体ショー

11月16日 収穫感謝礼拝

バイオリンコンサート

11月30日 アドベント礼拝

12月19日 年長児クリスマス礼拝

クリスマスページェント

12月24日 クリスマス会

1月15日 おもちつき

1月26日 幼児サッカー教室

2月23日 腹話術サークル公演

2月24日～3月3日 絵画展

3月5日 幼児お別れ遠足

3月20日 卒園式



## 東雲学童クラブ

---

### ●総括

東雲学童クラブは東雲児童館併設の放課後児童クラブとして、東京YMCAが指定管理者となって2008年4月より運営を行っている。主に小学校1～3年生までの学童期の子どもたちを対象に、放課後の一定時間児童を預かり、遊びや生活の仕方を身につける保育・養育機能と、保護者の就労支援の側面を持つ。

8月から9月にかけて新型インフルエンザによる登室自粛が数日あったが、今年度は定員(88名)を上回る入会者があり、年間を通じて元気な子どもの声で満ち溢れていた。

家庭での人間関係や、不規則な生活からか児童の言動に問題が生じることもあるため、保護者との個人面談、学校との情報交換を通じて個別的援助を行った。今後は家庭支援センター等とも連携をはかり、早い段階で対応できるよう心がけたい。

### ●特筆すべきプログラム

・隣接する東雲公園(通称：三角公園)は鬼ごっこやボールゲームなどができるため、天気の良い日は、ほぼ毎日この公園を有効に利用させていただいている。屋外での集団遊びを通じて発達するものは多く、年度当初は転倒や衝突などでケガをする子どもも見られたが、運動能力が向上し、ルールを身につけるとケガはなくなってくる。夏には特製の竿でセミ捕りなども行い遊びの幅が広がった。

・学童クラブではドッジボールを通じての交流が盛んで、潮見学童クラブとの練習試合、深川南部地区大会出場がよい機会となった。特に地区大会では前年から飛躍的に成績が向上したこともあり、特別賞を受賞して自信をつけた。

・併設クラブであることの特徴である幅広い年齢の来館者と交流は、イベントやプログラムにとどまらず、良い影響を与えている。さらに、児童厚生員が繋ぐ役割を果たしている。

### ●2009年度のあゆみ

- 4月 新入生歓迎会  
第1回保護者会
- 5月 わいわいデー(お楽しみ会)  
「布芝居」観賞  
「江東こどもまつり」へ参加
- 7月 第2回保護者会  
夏休み一日保育  
観劇会
- 8月 クラブ縁日  
遠足(科学技術館)
- 9月 引き取り訓練  
わいわいデー(ジャグリング)
- 10月 学童クラブ交流会(潮見)  
ハロウィン仮装ウォーク  
保護者個人面談
- 11月 遠足(辰巳の森公園)  
「あきまつり」(児童館と共催)
- 12月 日本音楽学校発表会見学  
クリスマス関連行事  
冬休み一日保育
- 1月 巨大カルタ大会
- 3月 次年度保護者説明会  
春休み一日保育  
深川南部地区学童ドッチボール大会  
わいわいデー(お別れ会)

## 東雲児童館

### ●総括

東雲児童館は江東区の指定管理者として、東京 YMCA が 2008 年 4 月より運営を行っている。放課後や学校休日の子どもたちの遊び場として、安全安心な環境と、彼らを指導する人材を提供している。地域や学校、近隣児童福祉施設からも高い評価と支援を受け、今年度は順調に歩みを進めることができた。

夏から秋にかけて新型インフルエンザが流行し、来館者が一時的に減少したがその後回復し、結果的には昨年度を上回る利用者があった。次年度は開館 30 周年に当たり、利用者数 20,000 人（学童クラブを含まず）を目標に地域での児童健全育成に努力したい。

### ●特筆すべきプログラム

#### <小中学生対象>

・デイキャンプ（日帰り野外活動）を 7 月と 11 月に実施した。7 月は船橋市の三番瀬干潟、11 月は葛西臨海公園鳥類園（バード・サンクチュアリ）へ出かけ、日ごろ感じることのできない自然を五感で味わうことができた。今後も「みちかな自然のふしぎを発見！」をテーマに野外活動を展開したい。

・地区の消防団より指導と協力をいただき、年末の 4 日間「こども消防団」として火の用心の呼びかけを行った。安全教育とともに児童館の地域へのアピールの効果もあった。

#### <子育て支援>

・大規模マンション等の建設に伴い人口の増加が著しく、核家族・乳幼児人口も増加の一途をたどる東雲地域は子育て支援プログラムへのニーズが高い。特に親子を対象とした体操などのプログラムが好評で、1 月以降増設するクラスもあった。

・2 月に外国籍の親子を対象に「子育てサロン For International Parents」を開催し、参加をした民生児童委員の方々からも YMCA らしいプログラムとして好評をいただいた。

### ●2009年度のあゆみ

- 5月 第1回地域連絡会  
「江東子どもまつり」へ参加
- 7月 デイキャンプ（於：三番瀬）  
乳幼児クラス水遊び
- 8月 夏休みプログラム実施  
「児童館看板づくり」「おばけやしき」



- 10月 第2回地域連絡会  
乳幼児クラス「おとうさんとあそぼう」  
ハロウィン関連行事
- 11月 東雲地区地域防災訓練に参加  
「あきまつり」開催（約 300 名入場）  
デイキャンプ（於：葛西臨海公園）
- 12月 クリスマス関連行事  
「こども消防団」活動  
児童福祉サービスの第三者評価調査
- 2月 節分関連行事
- 3月 ひな祭り関連行事  
児童福祉サービスの第三者評価報告会



## 東雲第二学童クラブ

---

### ●総括

江東区の委託事業として東京 YMCA が 2006 年より運営している放課後児童クラブ事業である東雲第二学童クラブはキャナルコートの高層マンション群中に立地し、在籍児童は下校後直接クラブに登室する。延長保育を含め午後 6 時まで残る児童がほとんどで、施設の性格上活動範囲は限定されている。このため、年 4 回の遠足や子ども自身がスーパへおやつを買いに行く機会をつくり、少しでも屋外へ出るよう工夫をしている。

住環境や、核家族化による親子関係などがもたらす子育て・子育ちの問題が常にあるため、学校や出身保育園、家庭支援センター等と連携をとりながら改善への援助をしている。職員の安全への配慮は行き届いているため、今年度は事故がなく過ごすことができたことは感謝である。

### ●特筆すべきプログラム

#### ・「遠足」

できるだけ外に出る機会を多くつくりたいと考え、夏 3 回、春 1 回の遠足を実施した。夏の遠足は新型インフルエンザが流行し始めた時期だけに開催が心配されたが、日程を変更するなどして子どもたちの希望に応えることができた。

#### ・「がくどうまつり」

保護者や学童 OB を招待し、あるいは彼らがボランティアとなって行う第二学童クラブの一大イベントで、1 ヶ月以上前から子どもたちが準備をする。YMCA キャナルコート保育園の園児や民生児童委員も来訪しゲームや工作などに興じた。

### ●2009年度のおゆみ

- 4月 新入生歓迎会  
第1回保護者会
- 5月 高齢者施設（デイサービス）訪問  
「江東こどもまつり」へ参加
- 6月 保護者個人面談
- 7月 第2回保護者会  
夏休み一日保育  
観劇会  
遠足（日本科学未来館）
- 8月 遠足（葛西臨海水族園／がすてなーに）
- 9月 引き取り訓練
- 10月 がくどうまつり
- 11月 合同防災訓練
- 12月 クリスマス関連行事  
冬休み一日保育  
福祉サービスの第三者評価調査
- 1月 巨大カルタ大会
- 2月 節分関連行事
- 3月 次年度保護者説明会  
第三者評価報告会  
春休み一日保育  
お別れ遠足

## 東雲第三学童クラブ

---

### ●総括

江東区の委託事業として東京 YMCA が 2007 年より運営している放課後児童クラブ事業である東雲第三学童クラブは、特別支援学校を含め現在 5 校から児童が通っているため、登室時間がまちまちであり、揃って外へ出かける機会が少なくなってしまう。しかし、育成室のほか体を動かす集団遊びに適した集会室もあり、子どもたちはストレスを発散できる環境にある。

親子の人間関係などがもたらす子育て・子育ての問題を地域の他クラブ同様に抱えており、学校や出身保育園、家庭支援センター等と連携をとりながら改善への援助をしている。職員の安全への配慮と緊急時の訓練は行き届いているため、今年度は事故がなく過ごすことができた。

### ●特筆すべきプログラム

「しゅくだい道場」

・「まずしゅくだいを終わらせるべし」を合言葉に、学習の習慣を身につけることを目的に行っている。宿題を終えなければ遊びもできないため、目標が具体的であり明確である。

「自分のことを近くで見えてくれる大人」がいることで、子どもが安定するという効果もある。

「お泊り会」

・新型インフルエンザの流行によりやむなく中止となったが、普段通っている学童クラブに友だちと泊まることは心の冒険であり、互いを知るよい機会にもなる。次年度は何らかの形で実現できればと考えている。

### ●2009年度のあゆみ

- 4月 新入生歓迎会  
第1回保護者会
- 5月 「江東こどもまつり」へ参加
- 7月 第2回保護者会  
夏休み一日保育  
観劇会
- 8月 遠足（木場公園虹の広場）
- 9月 引き取り訓練  
チャレンジゲーム大会
- 10月 ハロウィン・YMCA オリーブ保育園交流会  
保護者個人面談
- 11月 合同防災訓練  
読み聞かせの会（～3月）
- 12月 日本音楽学校発表会見学  
クリスマス関連行事  
冬休み一日保育  
福祉サービスの第三者評価調査
- 1月 新春の集い  
巨大カルタ大会
- 2月 しのさん冬季五輪
- 3月 次年度保護者説明会  
第三者評価報告会  
春休み一日保育

## 東雲ファミリーセンター

---

### ●総括

語学教育を中心に東雲キャナルコート地区及びその周辺の園児や小学生を対象に事業を展開し、安定的な運営がなされた。従来ファミリーセンターで企画・運営をしていた夏季キャンプは、libyとの共同開催としプログラムを充実させた。冬季及び春季スキーキャンプでもファミリーセンターを集合・解散場所にするなど、キャンプ運営の充実と見直しを図った。

地域に根ざした活動として、隣接するYMCA キャナルコート保育園と連携し子育て支援活動「ひまわり城」を開催し、多くの参加者を得た。母親同士の情報交換や子育ての悩み解消など交流の場となり、地域に根ざしたコミュニティーセンターとしての役割と機能が定着しつつある。

### ●特筆すべきプログラム

・幼児・小学生英語教育事業では、少人数制と、ネイティブと日本人スタッフによるダブルティーチング方式を取り、きめ細かな運営を図った。

・キッズ英語（小学生）のクリスマス会等では、スピーチコンテストを実施。日頃の成果を実践する機会を持ち、良い評価を得た。

### ●2009年度のあゆみ

7月21～23日 英語サマープログラム

10月26～30日

英語クラスハロウィンウィーク

12月19日 キッズ英語クリスマス（小学生）

12月20日 キッズ英語クリスマス（幼児）

\* キッズ英語（月曜日～金曜日）

\* 子育て支援活動「ひまわり城」  
（月2回木曜日）

\* 英語検定試験実施

## 芝浦アイランドこども園

---

### ●総括

港区の指定管理者として、こども園（幼保一元化施設）の3年目を歩んだ。今年度は、待機児童受入による弾力化を実施し、187名（0歳～3歳児92名、4歳～5歳児95名）の子どもたちを迎えた。

特別保育（長時間保育・一時保育・休日保育）を実施しており、年末年始の4日間以外は開園をし、保護者のニーズに応える保育を担っている。

また、子育て支援事業も継続して積極的に取り組んだ。月に1回～2回の園庭開放・園内行事・誕生会の参加、港区主催の子育て支援プログラム“みなとっこ（かかりつけ保育園・登録者約230名）”、“子育てあんしんプロジェクト（保健師・助産師・栄養士による相談事業）”も港区と協働して実施した。

さらには、港区港南地区事業の一環として、観劇会（荒馬座講演）・体力向上プログラム（東陽町ウエルネスセンター職員指導）も実施し、子どもたちの豊かな経験を積み重ねた一年となった。

### ●特筆すべきプログラム

- ・一時保育の利用者数 2,394名
- ・10月3日「みなと区民まつり」に、港区公立保育園15園と共に参加した。
- ・1月30日「子育て応援講座」（東京慈恵医科大学教授 衛藤義勝氏）を実施。こども園在園児保護者・在宅育児親子を対象とし、54名の参加があった。テーマは「子どもの心の発達～遺伝と環境～」で、共に学び合う機会となった。

### ●2009年度のおゆみ

4月 1日	保育開始
4月 4日	入園式
4月 8日	幼児教育開始
4月21～24日	クラス懇談会
6月 5日	遠足（4・5歳）
6月15～26日	保育参加（4・5歳）
7月 7日	たなばた
7月3～4日	山中湖キャンプ（5歳児）
7月18日	夕涼み会
9月 4日	引渡し訓練
10月19日	運動会
10月29日	芋ほり遠足（4・5歳）
11月12日	収穫感謝祭
12月12日	クリスマス会（0～3歳児）
12月19日	クリスマス・発表会（4・5歳児）
1月19日	おもちゃつき会
2月 3日	豆まき
2月 5日	観劇会
2月23～26日	クラス懇談会
3月 3日	ひなまつり
3月 5日	お別れ遠足（5歳）
3月16日	お別れ会
3月20日	卒園式

## 芝浦アイランド児童・高齢者交流プラザ

### ●総括

乳幼児から高齢者までが利用できる複合施設（児童館及び高齢者向け福祉会館）として3年目の運営は、イベント型交流からより身近な「交流」を打ち出した。敬老の日に因んだプログラムも1日のイベントではなく、交流月間としてさまざまな試みを行った。残念ながらインフルエンザ等の影響で、年間延利用者数は10万人から96,500人と減少したが、その中でも中高生や高齢者は増加した。内訳は小学生（学童クラブを含む）が35,600人、乳幼児18,200人、保護者・見学者26,000人、高齢者12,500人、中高生4,200人。年間361日の開館で、1日平均267名、1ヶ月平均8,040名の利用であった。

また、今年も近隣の町会・自治会や小学校・幼稚園、民生・児童委員等との連携・協力を活発に行い、おまつり・行事等への相互協力や各種会議・会合等への参加を積極的に行った。これらの成果として、館の主催で実施した「あいぶらまつり」には利用者・保護者に加えて近隣の協力を得て過去最高の1,500名程の参加者があった。

### ●特筆すべきプログラム

・**乳幼児**：子育て相談が増加し、日常の利用の中で専門職員がきめ細かく対応した。

・**児童(小学生～中高生)**：行事やイベントに加えて、日常的なあそびの環境の整備を行った。

・**高齢者**：区内の他福祉会館と同様の行事やイベントの定着と、館独自の事業として人気が高いウォーキングや歌声広場を定期的を実施した。

・**交流**：乳幼児・児童と高齢者の交流行事の定着化と、日常的・定期的な交流機会の増加をはかった。

・**複合施設の一体的運営**：子ども園との連携の強化、行事(夕涼み会・運動会・おまつり等)や日常の運営における相互協力の推進。

### ●2009年度のあゆみ

- 5月13日 子どもの日あいぶらプレーパーク
- 5月11日 学童親子ふれあいイベント①
- 6月9日 高齢者さわやか体育祭参加
- 7月5日 学童親子ふれあいイベント②
- 7月17日 卓球交流会
- 7月25・26日 芝浦3・4丁目まつり参加
- 7月25日 学童夏外出
- 7月～8月 高齢者世帯地域訪問事業
- 7月30日 環境対策打ち水プログラム
- 8月12日 高齢者東京湾クルーズ
- 8月18・19日 小学校高学年サマーキャンプ
- 9月23日 ふれあいコンサート
- 9月 高齢者・児童交流月間
- 10月1日 小学校低学年バスハイク
- 10月2・9日 乳幼児バスハイク
- 10月21～22日 高齢者ほのぼの作品展
- 11月1日 あいぶらまつり



- 12月16日 高齢者演芸会
- 12月25日 児童年末お楽しみ会
- 1月7日 新年交流会
- 3月12日 高齢者バスハイク
- 3月18日 卒業会

# 現 況

## 会員数

キリスト者	317
一 般	516
合 計	833

## 参加登録者数

部署名	青年成人			少年			合計
	男	女	小計	男	女	小計	
江東コミュニティーセンター	0	1	1	178	103	281	282
山手コミュニティーセンター	1	8	9	143	116	259	268
山手コミュニティーセンター・ウエルネス	11	47	58	309	241	550	608
山手コミュニティーセンター・STEP	0	0	0	17	7	24	24
山手コミュニティーセンター・語学	27	50	77	36	62	98	175
山手コミュニティーセンター・学舎	14	0	14	0	0	0	14
liby	20	14	34	3	0	3	37
東陽町コミュニティーセンター・ウエルネス	605	644	1249	983	681	1664	2913
東陽町コミュニティーセンター・東陽町認証保育所	0	0	0	19	17	36	36
南コミュニティーセンター(含む語学)	0	18	18	108	141	249	267
チャイルドケアセンター	0	0	0	12	8	20	20
西東京コミュニティーセンター	74	21	95	131	49	180	275
東雲ファミリーセンター	0	0	0	60	63	123	123
東雲キャナルコート保育園	0	0	0	67	54	121	121
東雲学童クラブ	0	0	0	37	55	92	92
東雲第二学童クラブ	0	0	0	12	18	30	30
東雲第三学童クラブ	0	0	0	17	17	34	34
YMCAオーリーブ保育園	0	0	0	56	59	115	115
国際ホテル専門学校	66	136	202	0	0	0	202
社会体育・保育専門学校	178	195	373	0	0	0	373
TYIS	0	0	0	58	51	109	109
東陽町語学教育センター	0	0	0	146	157	303	303
芝浦アイランドこども園	0	0	0	62	54	116	116
合 計	996	1134	2130	2392	1899	4291	6421



# 現 況

## プログラム在籍者数

部署名	体育活動		野外活動		語学活動		教養活動		その他		小計		合計
	成人	少年	成人	少年	成人	少年	成人	少年	成人	少年	成人	少年	
江東コミュニティーセンター	0	155	0	16	0	0	1	55	0	25	1	281	282
山手コミュニティーセンター	58	550	0	221	77	98	9	38	0	0	144	907	1051
liby	0	0	0	0	0	0	0	0	34	3	34	3	37
東陽町コミュニティーセンター	1249	1532	0	132	0	0	0	0	0	0	1249	1664	2913
南コミュニティーセンター	0	5	0	214	18	19	0	10	0	0	18	249	267
西東京コミュニティーセンター	16	4	72	124	0	0	7	52	0	0	95	180	275
東雲ファミリーセンター	0	0	0	0	0	123	0	0	0	0	0	123	123
東陽町語学教育センター	0	0	0	0	0	303	0	0	0	0	0	303	303
小計	1323	2246	72	738	95	543	17	155	34	28	1541	3710	5251
合計	3569		810		638		172		62		5251		

## キャンプ参加者数

部署名	件数	メンバー	リーダー	スタッフ
江東コミュニティーセンター	9	272	63	11
山手コミュニティーセンター	17	693	181	21
東陽町コミュニティーセンター	23	609	186	27
南コミュニティーセンター	16	388	103	17
西東京コミュニティーセンター	23	543	297	25
liby	5	136	41	11
合計	93	2641	871	112

## 野外施設利用者数

部署名	実数	延数
野尻キャンプ	996	4035
山中湖センター※	5571	10728
妙高高原ロッジ	2014	4428
合計	8581	19191

※日帰り利用者含む

# 現 況

## ボランティアおよび有給指導者（講師）数

部署名	ボランティア数	有給指導者数
江東コミュニティーセンター	23	2
山手コミュニティーセンター	106	0
山手コミュニティーセンター・ウエルネス	8	15
山手コミュニティーセンター・STEP	2	6
山手コミュニティーセンター・語学	0	19
liby	25	8
東陽町コミュニティーセンター・ウエルネス	222	79
東陽町コミュニティーセンター・東陽町認証保育所	0	20
南コミュニティーセンター(含む語学)	72	15
チャイルドケアセンター	2	17
西東京コミュニティーセンター	75	13
東雲ファミリーセンター	0	37
東雲キャナルコート保育園	0	40
東雲児童館	15	5
東雲学童クラブ	3	6
東雲第二学童クラブ	2	3
東雲第三学童クラブ	2	5
YMCAオリーブ保育園	0	38
国際ホテル専門学校	0	59
社会体育・保育専門学校	0	68
TYIS	5	16
東陽町語学教育センター	23	23
芝浦アイランドこども園	0	58
芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ	12	19
野外教育センター(野尻・山中・妙高)	93	4
合 計	690	575

## 2009年度 企業・団体との協働プログラム

部署	プログラム名	実施期間	場 所	協働企業・団体	
会員部	第11回懸賞論文 【豊かな福祉社会を創る】	10/31	東京YMCA	財団法人愛恵福祉支援財団	懸賞論文の募集、表彰
国際部	愛と平和のチャリティーコンサート 【チャリティーコンサート】	10/27	サントリーホール	明治安田生命保険相互会社	国際協力募金へ寄付
コミュニティーセンター	秋の山中湖キャンプ 【LD児対象キャンプ】	10/10～12	山中湖センター	三菱商事株式会社	助成金の他、社員ボランティアも合同参加
江東コミュニティーセンター	母と子の自然教室 【母子家庭対象キャンプ】	7/25～27 7/31～8/2	新潟県塩沢	三菱商事株式会社	社員ボランティアへの運営指導
江東コミュニティーセンター	渋谷区富山サマーキャンプ 【喘息児対象キャンプ】	8/7～11	千葉県南房総	渋谷区	運営指導、学生ボランティア派遣
山手コミュニティーセンター	調布市夏季臨海学校 【市立小6年生対象の臨海学校】	7/21～8/4	千葉県岩井海岸	調布市教育委員会	指導教員の派遣
liby	アートを通してWEBで出会っちゃおう 【アートブログ開設】	6/～	liby	NPO法人モバイルコミュニケーション	
liby	新しい若者支援事業	7/20～2/29	liby	社会福祉法人東京都共同募金会	若者サロンの設置
liby	チャリティーコンサート	2/27	日本基督教団早稲田教会	協賛：ステート・ストリート／三菱商事株式会社／財団法人早稲田奉仕団	
東陽町ウエルネスセンター	中央区臨海学校 【区内中学臨海学校】	7/21～8/8	千葉県館山	中央区	社会体育・保育専門学校学生他指導教員の派遣
東陽町ウエルネスセンター	練馬区臨海学校 【区内中学臨海学校】	7/19～8/11	千葉県岩井海岸	練馬区	社会体育・保育専門学校学生他指導教員の派遣
東陽町ウエルネスセンター	江東区地域高齢者事業 【介護予防プログラム】		江東区社会福祉会館	江東区	健骨・健骨体操指導

## 財団法人 東京YMCA

135-0016 東京都江東区東陽 2-2-20

TEL 03-3615-5562 FAX 03-3615-5608

<http://tokyo.ymca.or.jp/>